

# 町田市民病院

クォーターリー

vol.59  
2024年 春号



DMAT(災害派遣医療チーム)を  
石川県に派遣しました

## トピックス

- 診療科紹介「眼科」
- 肺がんに対するロボット支援手術を開始しました
- 病院と専門職を支えるスタッフ「笑顔でサポート看護補助作業員」
- 特集 「結石破碎装置」を更新しました
- 特集 「災害時の医療」

<http://machida-city-hospital-tokyo.jp/>

# 診療科紹介

## 眼科

眼科 医師 小松 功生士



市民病院の眼科では白内障、網膜硝子体疾患、黄斑疾患などを中心に治療に取り組んでおります。また、2024年1月からは低侵襲緑内障手術（istent inject Wやマイクロフック）を、2024年4月からは多焦点眼内レンズの導入を予定しております。入院加療、全身麻酔にも対応しておりますので、70～90歳の高い年齢層の患者さんに対して満足度の高い治療を提供したいと考えております。

### 当科で扱う代表的な疾患

#### ■白内障

白内障は、眼の水晶体が徐々に濁り、光の透過が阻害されて視力が低下する病気です。主に高齢者に多く見られる疾患で、日本の超高齢社会を背景に、手術を受ける人数は今後も増加が予想されます。日本人の場合、加齢が主な原因とされており、過去の調査では70歳代で90%、80歳代では100%が白内障と言われています。しかし、糖尿病、眼の外傷歴、強度近視、ステロイド使用歴、アトピー性皮膚炎など様々な原因により中年・若年で発症する場合があります。

白内障が進行すると、日常生活に支障をきたす視力低下を生じます。また、視力が良好でも、かすみ、まぶしさ、色調の変化、そして二重に見える症状などが生じる場合があります。一方で、加齢による白内障は進行がゆっくりで、自覚症状が乏しい方もいます。眼鏡やコンタクトレンズにより矯正しても視力が出づらいつい場合（一つの基準として視力が1.0を下回る、運転に必要な0.7に満たないなど）は手術を検討するきっかけとなります。

手術では、濁った水晶体を超音波で取り除き、眼内レンズを挿入します。眼内レンズの種類は、単焦点、多焦点、焦点深度拡張型など様々あり、それぞれ良い点と注意点があります。例えば、グレアやハローという光がにじむような見え方が多少あっても、眼鏡をかけないで生活をしたい場合は多焦点レンズを選ぶといいでしょう。また、眼鏡使用に抵抗がなく、絵を描くなどで色の違いをはっきり見たい場合は、単焦点レンズが向いています。手術後にどんな見え方を希望するかを具体

的に想像し、専門医との相談を通じて自分にあった眼内レンズを選択することが大切です。

#### ■網膜硝子体疾患

当院では、黄斑上膜、黄斑円孔、硝子体出血、糖尿病網膜症、裂孔原性網膜剥離に対する硝子体手術に対応しております。詳しくは医師にご相談ください。

黄斑疾患（加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病に伴う黄斑浮腫、病的近視に伴う脈絡膜新生血管）の原因は、網膜や脈絡膜という眼の組織から発生する新生血管に由来します。新生血管の発生に関わる血管内皮増殖因子（vascular endothelial growth factor : VEGF）等を阻害することで、病状を安定化させる薬物治療（硝子体内注射）があります。近年、様々な抗VEGF薬が登場しておりますが、最新の知見に基づき、適切な投与方法で病状の安定化に努めてまいります。



硝子体手術の様子



## 肺がんに対するロボット支援手術を開始しました

市民病院では、2022年12月に内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチX」を導入し、現在は泌尿器科領域「前立腺がん」、消化器外科領域「直腸がん」に対するロボット支援手術を実施しています。

この度、新たに呼吸器外科領域「肺がん」に対するロボット支援手術を開始しました。患者さんに多くのメリットをご提供できるロボット支援手術です。これまで以上に、「安全」「安心」「侵襲（負担）の少ない」手術を目指してまいります。



シミュレーションの様子

**内視鏡手術支援ロボットに  
関してはこちら  
(町田市民病院HPへリンク)**



[http://machida-city-hospital-tokyo.jp/image/hosp-guide/publication\\_files/2022/publication\\_55.pdf](http://machida-city-hospital-tokyo.jp/image/hosp-guide/publication_files/2022/publication_55.pdf)

**肺がんの治療（過去記事）は  
こちら  
(町田市民病院HPへリンク)**



[http://machida-city-hospital-tokyo.jp/image/hosp-guide/publication\\_files/2023/publication\\_57.pdf](http://machida-city-hospital-tokyo.jp/image/hosp-guide/publication_files/2023/publication_57.pdf)

# 笑顔でサポート 看護補助作業員

病院には医師、看護師、薬剤師、栄養士など様々な専門職が、通院する方や入院する方、そのご家族を支えるために働いています。そして、そんな専門職とともに働き、支えてくれている職員もたくさんいます。このシリーズでは病院を支えている職種の方々を紹介していきます。第3回は看護補助作業員です。

## ■ 看護補助作業員とは

皆さんは病棟で看護師と一緒にシーツ交換や食事の配膳、患者さんの身の回りの支援をしている看護補助作業員をご存じでしょうか。看護補助作業員は、患者さんの身の回りの支援だけでなく、看護師のサポートとして医療機器の準備や片付け、検査やリハビリテーションルームへの送迎なども行っています。医療の現場で働くことが初めてのスタッフも多いですが、様々な研修を定期的に行い、知識や技術を磨いており、患者さんにとって頼りになる存在です。看護師とともに一人ひとりの心に寄り添って支援に当たっています。



## 職員インタビュー

中村さん、林さんのお二人にお話を聞いてみました。

### Q. 町田市民病院で働くきっかけは？

**中村：**求人を見て、業務内容が自分に向いていると感じ、働いてみたいと思いました。

**林：**病院で看護補助の仕事をしている友人から仕事内容を聞いて、働いてみたいと思いました。



中村さん



林さん

### Q. 仕事をしていて大変なこと

**中村：**体力も必要とされる仕事なので大変な時もありますが、それ以上にやりがいを感じる事が多いです。

**林：**医療現場での仕事のため、車イスでの搬送、高齢の方への食事介助は事故が起こらないよう、看護師と一緒に確認しながら実施しています。



車イス介助



## Q. 仕事をされていて楽しいこと、よかったこと、嬉しかったこと

**中村・林**：患者さんから感謝の言葉や労いの言葉をかけていただいた時など、やりがいを感じます。



ベッドメイク



業務前の打合せ



左：病棟看護師 榊原主任

### 一緒に働く榊原主任より一言

看護補助作業者の皆さんのてきぱきとした仕事ぶりや、温かい笑顔と気遣いに毎日助けられています。看護師・患者さんにとって、欠かせない存在です。これからもチームの一員として一緒に頑張っていきます。



食事介助

## Q. 仕事をするうえで大切にしていること

**中村**：素早く作業し、臨機応変に行動できるよう心掛けています。また、患者さんの負担を少しでも解消できるようにコミュニケーションも大切にしています。



**林**：患者さんの入院生活の不安、体の痛みが少しでも和らぐような声掛けを心掛けています。

## Q. 患者さんにひとこと！

**中村・林**：わからないことや不安なことがありましたら遠慮なくお声かけください。



## 着任医師紹介

新しく仲間になりました常勤医師をご紹介します。これからどうぞよろしくお願いいたします。

①出身大学・卒年 ②趣味 ③メッセージ 



小児科

**久保田 淳**  
(くぼた じゅん)

①東京慈恵会医科大学  
2011年卒

②テニス・スキー・将棋

③町田市のお子さんの健康をサポート致します。

特集

# 結石破碎装置を更新しました



## 従来の装置と比べて

機能の向上	効果
治療中の体位	ほとんどの結石に対して仰向けで治療が可能となりました。
X線被ばく (衝撃波照射中)	高さ方向の結石位置確認が不要なため、X線被ばくを軽減できます。
治療中の痛み	痛みに合わせてより細かな出力調整ができます(9段階→26段階)。
X線画像	高解像度のCCDカメラを搭載し、より高繊細なX線画像が取得できます。
耐荷重	135kg→225kg(大柄な方にも対応可能)

## 体外衝撃波結石破碎術とは？

**体外衝撃波結石破碎術**は、体の外から結石に向かって目に見えない衝撃波を照射し、結石を砕く治療法です。患者さんによっては、衝撃波が当たるときに痛みを感じるため、痛み止めを希望される場合もありますが、麻酔なしで治療を行うことができます。

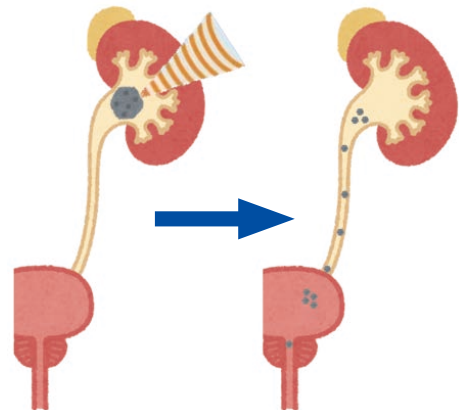
治療時間は1時間程度で、外来通院での治療が可能です。外科的な手術ではありませんので、治療が終わったらすぐに日常生活に戻ることができます。おおむね1cm未満の尿路結石に対して行われます。

## 原理は？

体外衝撃波結石破碎術は破碎装置から衝撃波を発生させて、レントゲンやエコーで結石のみにしっかり焦点を合わせて当てることで、衝撃波が通る筋肉や皮膚、骨、内臓などの組織を損傷させることなく、結石のみを破碎する治療法になります。皮膚への痛みも少ないです。1分間に約60回、1度の治療で3,000～4,000回の衝撃波を結石に当てます。そして衝撃波により細かく粉碎された尿路結石は尿と一緒に排出されます。破碎した結石が尿管内に詰まり、疼痛が生じることがあります。この場合は、疼痛が落ち着くまで鎮痛剤を使用し、飲水量を増やして、尿と一緒に排泄するようにします。



衝撃波照射のイメージ



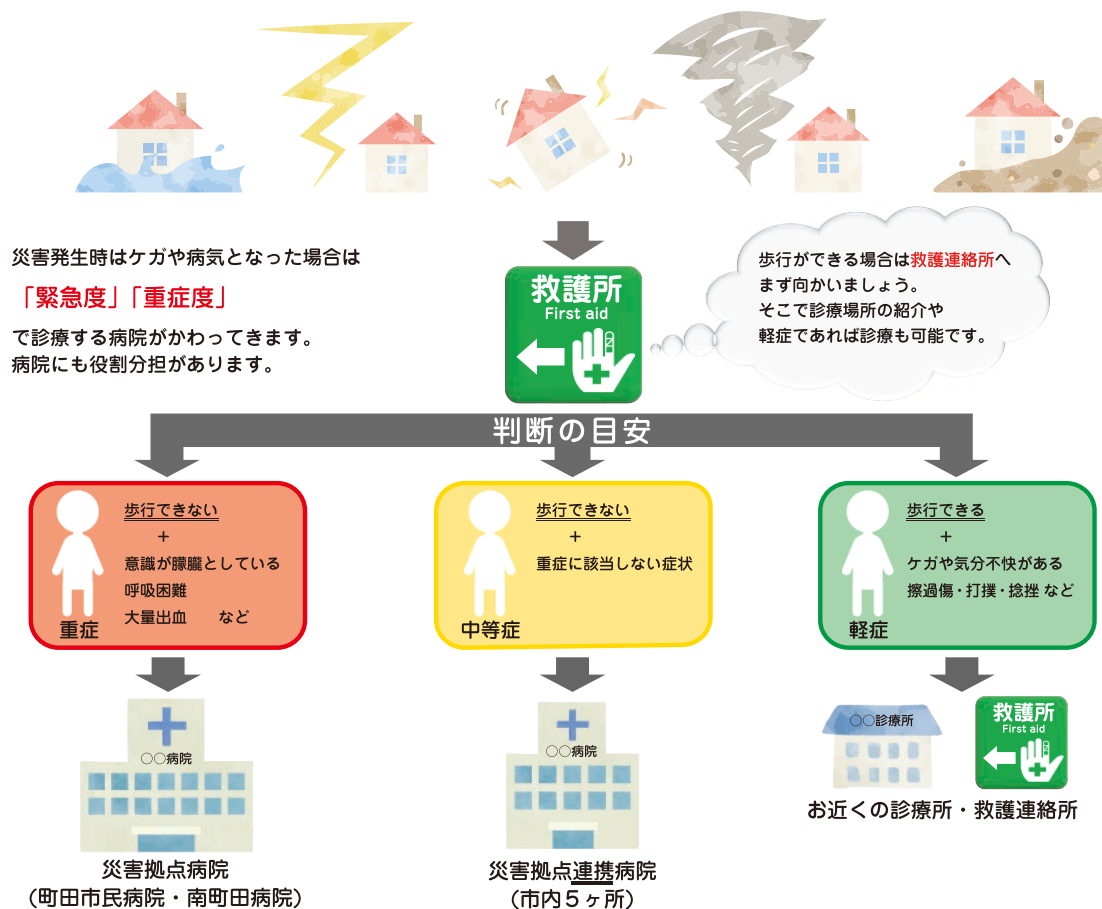
衝撃波により結石が破碎されます

## 災害時の医療～救護連絡所をご存じですか？～

明日にでも起こる可能性がある「災害」。災害発生時は、落ち着いて自分の身を守りましょう。しかし、万が一自分が、あるいはご家族やご近所の方がケガを負ってしまった場合、どのような行動が求められるでしょうか。

災害が起こった際、医療機関は病気やケガの重症度である「重症」「中等症」「軽症」ごとに診療する役割が分担されます。

救護連絡所では、病気やケガの程度を判断してくれます。軽症であれば救護連絡所で診療も可能となっています。目立った大きなケガがなく、自力で歩くことができる状態の場合は、町田市が救護連絡所と指定している小中学校に直接向かいましょう（市内の救護連絡所は町田市ホームページに掲載されています）。日頃から自宅の一番近い場所はどこなのか確認しておくことも大切になります。



救護連絡所での診察の結果、治療の必要がある場合は災害拠点病院でもある市民病院などに紹介されます。また「救護連絡所」は診療だけでなく、いつも飲んでる薬の処方なども行ってくれます。診療の時には、お薬手帳・母子手帳が必要になりますので、いつでも持ち出せるように置き場所を覚えておきましょう。

災害時も町田市内の診療所や病院はEMIS(広域災害救急医療情報システム)というシステムでお互い連携をとり、速やかに診療体制を確保します。

災害時に適切な医療を速やかに安全に提供するため、市民の皆様のご理解・ご協力をお願いします。



## DMAT(災害派遣医療チーム)を派遣しました

東京都からの要請を受け、DMAT(災害派遣医療チーム)を石川県に派遣しました。DMATは Disaster Medical Assistance Teamの頭文字で、医師、看護師、業務調整員(医師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に急性期から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

▶派遣期間：2024年1月21日～23日

▶活動場所：石川県能登中部保健福祉センター内

能登中部保健医療福祉調整本部にて、福祉施設支援担当として、七尾市・志賀町内61の施設の支援調整を行いました。

今後も災害時の医療要請に応えられる体制を維持していきます。



DMATのメンバー



能登中部保健福祉センターでの調整業務

## とっておきの 産後食

### ～ イベントメニュー「節分」～

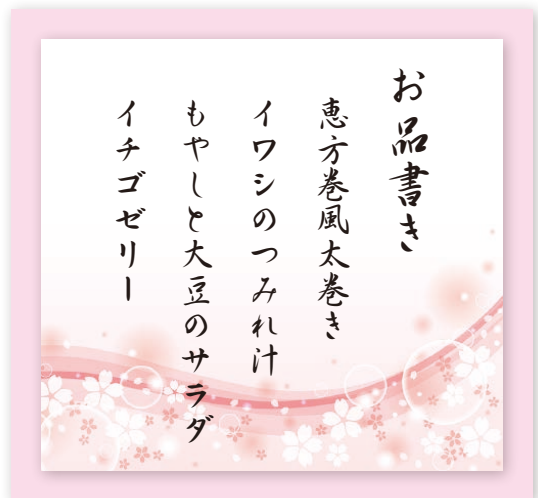
2月のイベント食は節分にちなみ恵方巻風の太巻きメニューを提供しました。

恵方巻はすっかり節分の定番になってきましたが、病院ではカットせずに提供することが難しいので食べやすくカットした太巻きを楽しんでいただきました。



♥町田市民病院では、妊娠から出産後の育児まで、お母さんと赤ちゃんのサポートを行っています。詳しくは、町田市民病院・産科特設ページをご覧ください。

町田市民病院・産科特設ページ  
<http://machida-city-hospital-tokyo.jp/department/obstetrics/>



編集・発行：町田市民病院  
〒194-0023 東京都町田市旭町2-15-41  
TEL：042-722-2230(代)  
<http://machida-city-hospital-tokyo.jp/>